

森林の施業管理

竹林の拡大と対策

研究の背景・目的

島根県では竹林の管理放棄によって、タケが周辺の造林地などへ急速に拡大しています(右写真)。これによって、樹木の生長、景観などに悪影響を与えることが懸念され、地域住民などからその早急な対策が求められています。そこで、本県の竹林拡大の実態を明らかにし、竹林拡大防止策を提案しました。



人工林に侵入したタケ

研究方法

①竹林の拡大状況の調査

昭和61～平成14年度島根県統計書(島根県)から竹林面積やタケノコ、竹材の生産量の変化を調査しました。

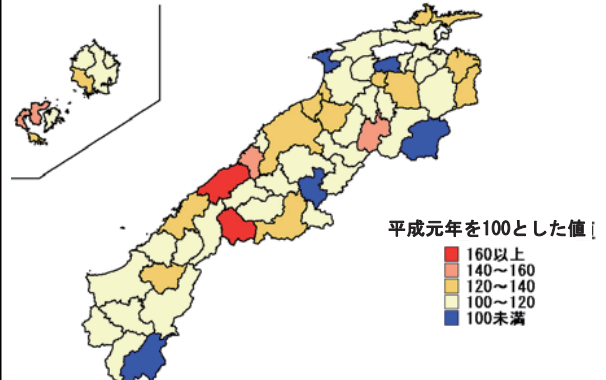
②除草剤を使ったタケ枯殺試験

除草剤(ラウンドアップHL)10mlをタケの幹に直接注入してタケが枯れる状況を調査しました。

研究の成果

①竹林の拡大状況の調査(右図)

平成元年からの14年間で多くの旧市町村で竹林面積が増加し、県全体の増加率は17%でした。竹林が拡大した理由はタケノコや竹材生産が減少したことに加え、過疎・高齢化も影響していることが明らかになりました。



14年間の竹林面積の変化(H元～15年)

②除草剤を使ったタケ枯殺試験(写真①～③)

除草剤をタケの幹に注入する場合、針を外した注射器を使用すると作業効率が良くなりました。除草剤注入後、注入口をガムテープなどでふさぎますが、この作業に時間が掛かります。薬剤を注入する高さを20、70、120cmと変えてみましたが、いずれも同様の効果が認められました。地形、体形によって注入し易い高さを選択することが可能です。



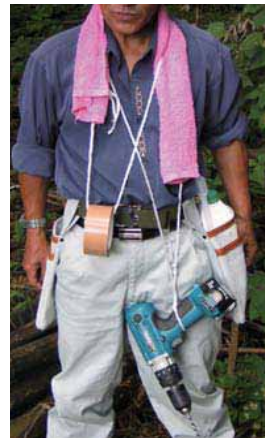
①ドリルで開口
φ6mm



②注射器で注入
10ml



③テープで封鎖



作業の装備

首からぶら下げ

- ・ドリル
- ・テープ

腰袋

- ・注射器
- ・除草剤

研究成果の活用

人口減少や高齢化が竹林拡大の原因の1つになっているので、所有者、市町村及び県が連携を図りながら、集落単位で竹林管理計画を作成することが重要であると考えます。

また、除草剤を使用したタケの枯殺は竹林全域で行うことは困難です。急傾斜地などタケの伐採が困難なところや民家、墓地周辺など、どうしてもタケの侵入を防ぐ必要がある部分などで活用すると良いでしょう。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ：森林保護育成グループ

担当研究者：山中啓介

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3820

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：竹林の人工造林地などへの侵入実態の把握と省力的な拡大防止策の確立(研究期間：H16～17)